

◇平成21年2月12日選定

梼原町は、総面積236 km²のうち、森林面積が91%を占めることから、古くから林業を生活の基盤にし、発展してきた町であります。また、農地や集落は町内に点在していて、特に水田は、急な地形にあることから、そのほとんどが石垣によって築かれており、その中でもかんざいこ神在居集落の千枚田（棚田）は町内でも特に勾配のある場所にあることから、小さな規模の水田（畳1畳にも満たないものもある）が多い地区であります。また、四万十川流域で見られます沈下橋は、町内に8カ所あり、今でも農業や林業の作業に利用されています。本町の文化的景観は、沈下橋、森林、石垣のある棚田など自然に逆らわない生活の中で形成された景観です。



写真1 四万十川の最大の支流、梼原川と沈下橋



写真2 かんざいこ司馬遼太郎氏が万里の長城にも劣らないといったかんざいこ神在居の棚田